

何ができるようになるか  
○各教科等で育成する資質・能力



何が身に付いたか  
○各教科等の学習評価

- (1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる
- (2) 主体的に学び続ける資質・能力を身に付ける
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる

- (1) 課題を見出し、協働しながら創造的に解決できる力
- (2) 主体的に学習に取り組み、自らの学習状況を把握し、振り返りながら自己の学びを調整する力
- (3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる力



・ICT 機器などを活用しつつ、主体的に学ぶ機会や対話的に学ぶ機会が少なく、深い学びを実践している生徒が少ないことが課題である

・学校行事やキャリア形成活動において、主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか  
○配慮を必要とする子供への指導

- ・教育相談体制を整え、学校、保護者、SC、SSW 等と連携を図り支援する。
- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別的教育支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、学校全体で支援する。
- ・ライフスキル教育を通して、生きていくうえで必要なスキルを認識し、日常のさまざまな問題や課題に対処するための技術を指導する。

・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒

・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒



何を学ぶか  
○各教科等の教育課程の編成



どのように学ぶか  
○各教科等の授業の実施

- (1) 探究を軸とした創造的な学びの環境の整備
- (2) 習熟度に応じた、多様な学びができる教育課程の編成
- (3) 多様な国や地域への理解を深めるとともに、グローバルな視野を持ちつつ主体的に社会参画できる環境の整備

- (1) 各教科での学び、総合的な学習の時間での探究活動や情報を活用する活動
- (2) 少人数学習、習熟度別学習、学習支援ソフト等を効果的に活用した、個に応じた学習や学びの共有化
- (3) 英語科や社会科を中心とした各教科での学びとダイバーシティ教育活動を通じた国際理解教育の推進

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【主体的な学び】 Google や Classi を活用した授業や家庭学習 / Qubena (AI 活用学習ツール) / 先取り学習 / 少人数・習熟度別授業 / ALT を活用した教科横断型授業

【探究活動】 探究プロジェクト / 地域探究セミナー / 探究活動発表会

【ダイバーシティ教育】 ライフスキル教育 / 語学研修 (海外中学校体験留学・ブリティッシュヒルズ宿泊研修) / 東京グローバルゲートウェイ (TGG) / ALT による朝の HR

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- ・基礎的・基本的な知識
- ・問題解決的な学習を通じて育成される問題発見・解決能力
- ・体験から学び実践する力
- ・ディスカッションを通じて育成される他者と協働する力
- ・物事を多面的・多角的に見定める力